

## ●元祿享保時經濟思想の研究

文學士 中村孝也著

著者が往年、帝國學士院の推薦に基き、東照宮三百年祭記念會の研究補助費を受けて研究された、近世經濟事情の研究報告中、印刷の困難少き一卷に、多少の修正を施して公刊せられたものである。從來の經濟史を稱するもの、多くが、經濟事實の歴史であるか、經濟學史であつたに對して、本書は當時の經濟思想を、研究の對象としたものである事は、本書を紹介する誰もが、必ず特記すべき事であるだらう、本書の結構組織に關しては、著者の言に従へば、形式上と内容上の兩方面から考案して組立て、ある。形式方面より見るならば、第一章の序論に始り、第二章に於て經濟と政治と道德との關係を見て總じて武家階級本位の經濟政策論たりと言つて居り、この第二章を以て内容上の概論に充て、且つ以下數章の結論として居る。第三章以下は、其内容に於ては、前二章に論及したる事柄の論證であつて、其形式上は之を經濟に關する根本概念、生産論、交換論、分配論、消費論、財

政論の諸項に分ち、以て前段の概論に對する各論を試みて居る。其章節の立て方を一見してさへ、如何に本書が新しい意義を有する研究であるかを窺知する事が出来るであらう。而して何れも當時の經濟學者の所説を可なり親切に摘録してある事は、經濟學者の著書を手にし得ぬものにも、よく其所依を知る事が出来て便利であらう。

(菊版四五八頁、定價三、七〇、國民文化研究會發行)

〔以上中村〕

## ●現代歐洲政治及社會史 渡邊幾治郎譯

世界大戰後公刊せられたる一般史としては好著の評あるジ・エス・シャピロ氏の著書 *Modern and Contemporary European History* が、渡邊氏の平明流暢なる筆を以て邦文に譯述せられしことは、寔に讀書界の爲に慶賀すべき事なりとす。本書は筆を十八世紀末の歐洲社會狀勢に起こし、世界戰爭の終結に及び居り、章を重ねる。こゝ二十七、題名の示す如く現代歐洲各國の政治界及び社會生活の實相を説き、能く巨細の點に互り而も叙述簡約を旨とせるは、鍊熟せる著者の手腕を窺ふに足れり。譯文は所謂

全譯ならず、比較的重要なならざる部分邦人に興味薄き部

分はこれを省略し、又間々抄譯と認めらるゝ箇所少なからざれども、達意を主とせる文體はよく原著の旨趣を傳へて些の遺憾なきものと思はる。由來泰西學者が佛蘭西革命以前の歐洲史に於いて見事に成功せる如き、秩序整然たる統合的編述を以て、十九世紀以降の最近世史を取扱はんとするは至難の事に屬す。ましてや近時史界の趨勢たる文化史的態度を以て、生活諸相の統一的把握を試み時代の一般精神や主潮傾向を説かんとするは、寔に其困難測り知るべからざるものあるなり。本書はこの難事を遂行し學界の缺陷を補へる述作として推奨するには聊か躊躇すべきものなれども、兎に角類書中の白眉として將た最新の編述として一般讀書子の繙讀を薦むるや切なり。〔植村〕

### ● 琉球伊波貝塚發掘報告 大山 柏著

大正九年四月琉球地方旅行の際同地中頭郡美里村伊波の貝塚の一部を發掘調査して良好なる結果を收めたる大山公爵がこれに關する一切の起録と研究の結果とを網羅

して學界に提供せるものを本編とす。

記述は先づ發掘の動機よりはじまり、次に遺跡の地形も其の現状、發掘の經過、貝層の状態と遺物の關係の諸項に互り、四枚の實測圖を用ひて精細に録する處あり、第五章遺物の研究に於いては、これを土器、石器及び石類骨牙器、貝器等に分ちて一々に就いての客觀的の記載と共に著者独自の研究を録し、伴出の獸骨、魚骨等に就いては石川、岸上兩博士、貝殼に關しては岩川教授の調査成績を紹介してすべてに遺漏なからん事を期せり。此の遺物の研究は蓋し本編の骨子たるものにして、全冊の七分をこれに割き、特に土器に就いては「昨年の考古界にて紹介する處ありし著者の新考案になる紋樣論を以て、其の性質の推究を試み、我が有史以前の各種の土器中に占むる處の位置を決定するにつこめたるは注意に値す別に卷末に獨逸文にて梗概を録し、また同地天願貝塚其他に關する附録あり。

著者の記述に依るに本貝塚は其の性質に於いて嚮に東京大學の松村瞭氏の調査發表せる同島萩堂貝塚に極めて近似せること明なり。これは琉球の史前研究上興味多き